

小学校英語，現場で奮闘中！

筑波大学附属小学校 荒井 和枝

筑波大学附属小学校では、3年から6年まで週1時間英語活動を行っています。どの教師も願っていることだと思いますが、英語を好きになってもらうことが小学校での大きな目標といってよいでしょう。主に聞く、話す活動を通して英語に慣れ親しみ、中学校から始まる英語学習への橋渡しができればと思っています。

1. 子どもたち，やっぱり歌が好き！

どの学年でも英語の歌を歌っています。授業のウォームアップとして有効なだけでなく、英語の音やリズムに慣れ親しむことができます。日本語でも耳馴染みのある歌などからマザーグースの歌、高学年後半は長めの歌にも挑戦しています。最初はヒントなしで聞こえた音について尋ねます。次はヒントを提示して「食べ物が歌の中に入っているよ。」「動物が出てきているよ。」など子どもたちの耳が集中しやすいように投げかけます。もちろん一度では聞き取れないので、繰り返し聞くこととなります。“One more time, please!”を引き出しながら繰り返し聞いて真似をするという機会をなるべく増やします。慣れてきたらクイズにするなど、子どもたちが飽きない工夫も必要です。“Who stole the cookie from the cookie jar?”などは歌えるようになってから、カードゲームをすると盛り上がります。

今年度からは毎週金曜日の給食の時間に英語の歌を放送し、英語に親しんでもらう取り組みをしています。2曲を流しますが、1曲は“Grandfather’s clock”「大きなのっぽの古時計」や“One sunny day”「森のくまさん」など低・中学年でも英語で口ずさんで歌いたくなるものになっています。もう1曲は子どもたちからのリクエスト。毎週、「あの曲をお願い！」とリクエストが集まります。特に高学

年の中には洋楽を聞き始めている子どももいるので、自分の興味のある音楽をリクエストしてくれます。*One Direction*あり、映画「レ・ミゼラブル」の挿入歌ありと様々です。

2. 学年に合わせた活動を！

3・4年生は英語を聞くことに慣れながら、歌、絵本、ゲームなどを通して身近な単語や表現を増やしていきます。

例えば“Five little monkeys”を扱うときには、動物の名前、数、部屋にある身近なものを導入できます。大型本があるので、部屋の様子を見せるだけでも、bed, pillow, pajamas, phone といった言葉も扱えます。「英語と日本語のパジャマの発音が違う！」それだけでも子どもにとっては発見です。

Five little monkeys jumping on the bed.
One fell off and bumped his head. Mama
called the doctor and the doctor said, “No
more monkeys jumping on the bed!”
Four little monkeys jumping on the...

繰り返すうちに、子どもたちはリズムのって表現をかたまりとして覚えていきます。また、体を動かすことも好きなので、5匹の小ザルやママザル、お医者さんのサルになりきって発表したりします。

5・6年生は*Hi, friends!*を扱いながら、英語で表現することを楽しめるような活動を取り入れています。英語そのものを表現する楽しさも味わってほしいと考えているからです。

スキット活動はその一環です。昔話スキットやオリジナルスキットを活用して授業を構成します。*Hi, friends!*で扱った表現や既習事項を組み合わせながら、視覚資料を用いて内容を理解させます。ストーリーが分かり、聞くことに慣れた段階で声に出していきます。

子どもたちにとって覚えることはハードルが高いのですが、繰り返すことで少しずつ自信がついてきます。あくまで週1時間の活動なので、繰り返し練習ができるよう帯学習で取り組みます。小道具などがあると子どもたちは喜んで演じます。100円ショップなどで買う程度ですから手間はかかりませんが、効果は絶大です。

以下は、子どもたちが昨年*Hi, friends! Lesson 3*で*How many ~?*の表現を使って考えたオリジナルストーリーです。『10匹のペットのクモが1匹なくなっちゃった!』という話です。ペットがクモという発想が小学生らしいですが、話のオチをつけることで伝える楽しさが広がります。また、ペットの種類を変えることでペアそれぞれのストーリーが作れます。



3. 体験活動が大きな目標に!

小学校の英語活動で扱う表現は中学校と比べるとほんのわずかですが、子どもたちは英語を使って話してみたいという欲求もっています。もちろん、ふだんの授業のやりとりも前向きに取り組みますが、子どもたちのモチベーションが一気に高まるのは、ALTや留学生との交流会の時です。

特に、留学生と過ごす交流会の体験は子どもたちにとっても印象深いものになっています。いろいろな国から来ている留学生がいろいろなアクセントの英語で話している、これ

だけでもとても刺激的なことです。その中で、自分の英語が通じる喜び、通じないもどかしさを体験します。さらに、言葉の気づきだけではなく、宗教によって給食の中に食べられないものがあるなど文化の違いも理解していきます。交流会は、国際理解の第一歩となる活動でもあります。小学生は体験しながら学ぶという過程がとても重要だと感じています。



また、昨年度は筑波大学が推し進めているグローバル化事業のひとつとして、児童24名(希望者)を対象にサンフランシスコ研修を



実施しました。まさに初の試みでしたが、スタンフォード大学や地元の小学校の協力を得て、子どもたちの世界を広げる貴重な体験をしました。

4. 今後の課題

現在の学習指導要領では、英語の定着までには求められていません。あくまで慣れ親しみですが、子どもたちが少しでも英語の積み重ねを意識できるような系統的な指導、内容の配列が必要だと感じています。体験活動とリンクさせながらより充実した時間となるよう実践を重ねていきたいと思っています。